

タイ経済指標斜め読み

(2026 年 10 月版)

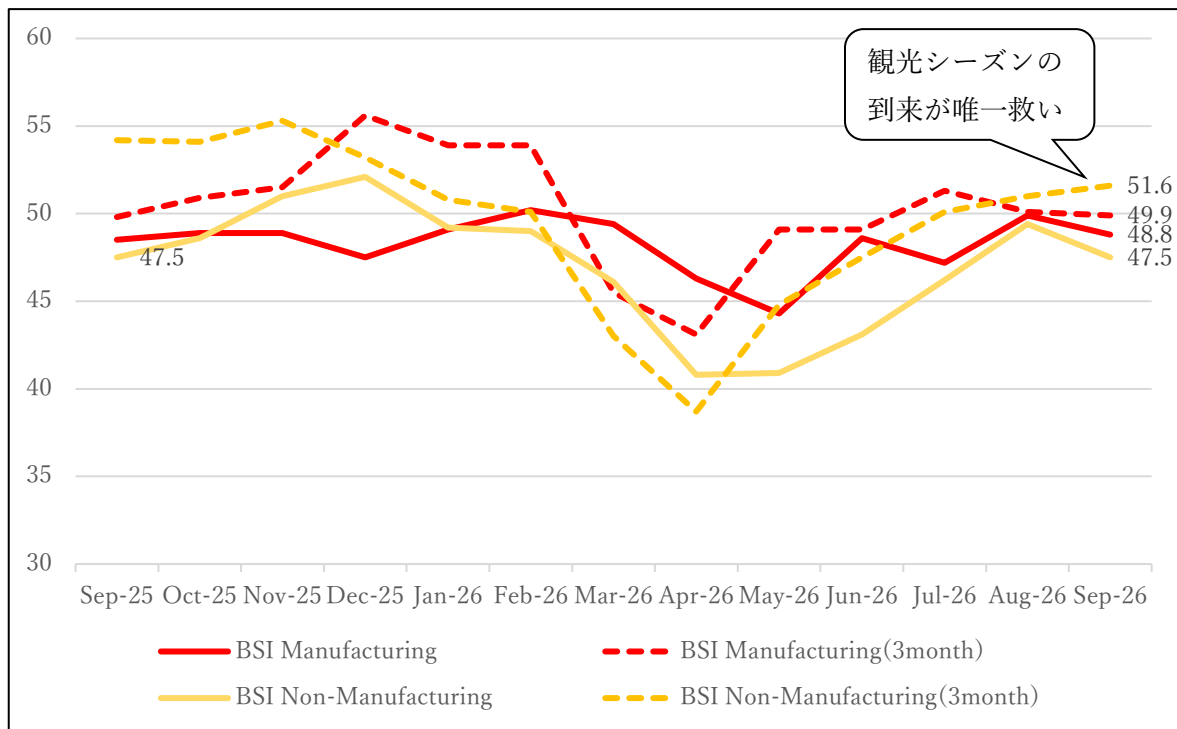
ビジネスサポート部

加藤義人

kato@mat.co.th

■No. 1 ■【指数データ】ビジネス景況感指数

タイタイ中央銀行（BOT）は、9月のビジネス景況感指数（BSI）を発表した。下グラフはBSIの構成要素である製造業と非製造業の当月と3か月後の期待値となる。（50＝前月から安定）

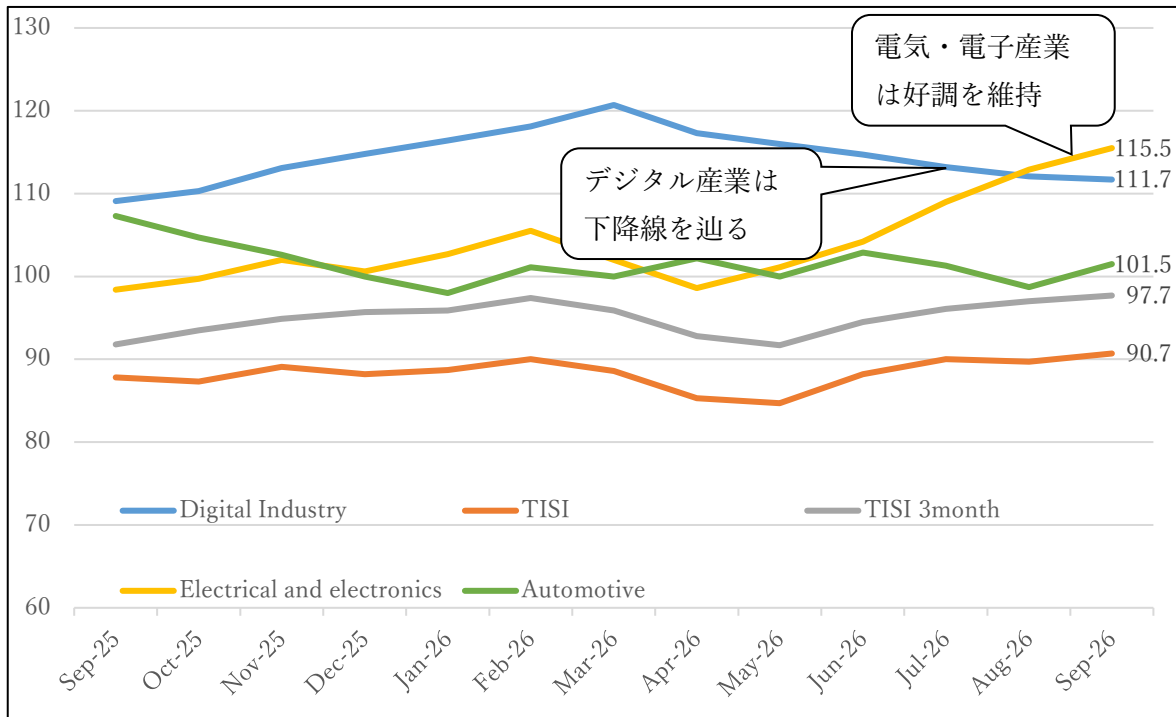


9月の製造業BSIは48.8、同期待値は49.9、非製造業は47.5、同期待値は51.6となった。当月の製造・非製造BSIに関しては、前月から悪化となった。主な要因として、中東戦争の影響にて石油製品価格の上昇を懸念している事や、タイ政府の経済援助策が終わりを迎えている事への収束感などが影響している。製造業に関しては、農作物の不作の影響や米国の輸入関税問題などが上げられた。非製造業に関しては輸送コスト増に伴う収益の悪化が懸念されている。期待値では、非製造業は観光シーズン到来を期待し、全体的に上昇した。製造業では、観光シーズン到来に伴い、製品のパッケージなどが増加すると期待されている。

出所：<https://www.bot.or.th/>

■No. 2■【指数データ】産業景況感指数

タイ工業連盟（FTI）は、9月のTISI（産業景況感指数）を発表した。下グラフは同3か月後の期待値とデジタル産業、電気・電子産業ならびに自動車産業の指数を表したものとなる。（100＝前月と変化なし）

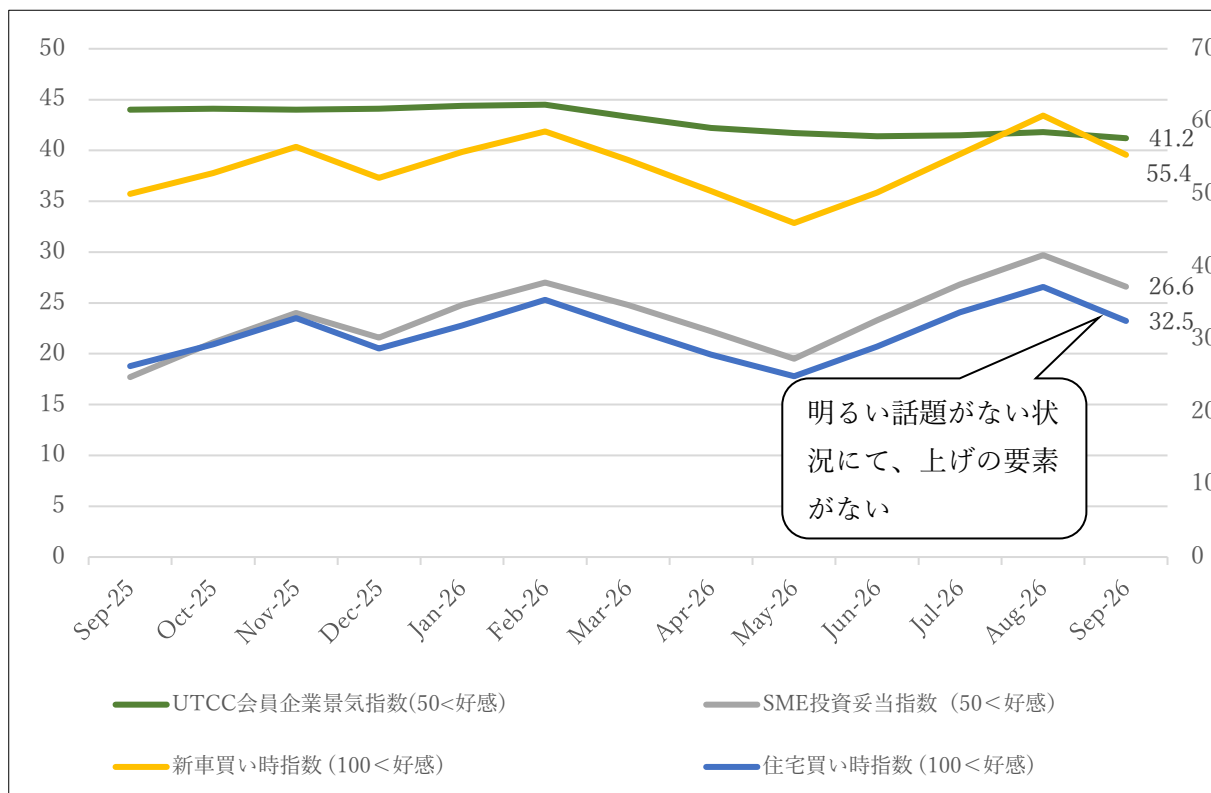


9月のTISIは90.7、同期待値は97.7となった。いずれも「良くなった」を示す100には届かない結果となった。次に、デジタル産業は111.7となり、「良くなった」を継続中だが26年3月を境に毎月下降傾向となっている。次に電気・電子産業は115.5となり、26年4月以降毎月前月から上昇している。最後に自動車産業は101.5となり、「良くなった」を示す100を上回った。全体的な傾向として、政府が電気料金を値下げしたこと、年末向けの受注が増加した事、自動車（EVとHEV）の生産が増加したことで下部産業への好影響があったこと、AI需要の引き続きの高まりで、関連産業の生産・輸出が好調なこと、タイ政府の民間支援策で民需が増加したことなどが挙げられた。一方、大雨の影響で搬送業務に支障が出たこと、燃料高の影響で輸送コストが増加している事、安価な中国製品の流入でSMEなどのビジネスに悪影響が出ていることなどが挙げられた。

出所 : <https://fti.or.th/>

■No. 3 ■【指数データ】UTCC会員企業景気指数

タイ商工会議所大学（UTCC）は、9月の景気指数を発表した。これは、UTCCの会員企業計369サンプルを元に算出。



9月のUTCC会員企業景気指数は41.2となった。次にSME投資妥当指数26.6、新車買い時指数は55.4、住宅買い時指数は32.5となり、全ての指数は前月から悪化した。9月に入り、各都市で洪水被害が発生し、経済に影響を及ぼし始めている事が嫌気する要因となった。また、景気低迷とコスト高で国民の生活が厳しい状況が続いていること、製造コストの増加や終わらない中東・ウクライナ戦争を危惧していることが影響した。明るい話題では、政府が景気刺激策を延長したことによる期待感や消費税の据え置きが決まったことなどが挙げられた。

出所：<https://cebf.utcc.ac.th/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2026 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。